

2024年2月21日

## 生成 AI「ChatGPT」の活用開始について

めぶきフィナンシャルグループの常陽銀行（頭取 秋野 哲也）と足利銀行（頭取 清水 和幸）は、業務効率化および生産性向上を目的に、生成 AI「ChatGPT」の活用を開始しますので、下記のとおりお知らせいたします。

「ChatGPT」の活用により、情報収集や資料構成案の作成等にかかる業務の効率化を進め、営業活動や企画業務等へ充当する時間を捻出するなど生産性の向上に繋げてまいります。また、全行員（約 6,000 名）が利用可能な環境を整備することで、行員の AI リテラシー向上を促進してまいります。

めぶきフィナンシャルグループは、今後も最新の技術を積極的に活用することで経営効率を高め、安定した経営基盤の確立を図るとともに、行内活用で得た知見を地域に還元してまいります。

### 記

#### 1. 想定する活用業務

- 資料の構成案作成や情報収集、アイデア創出のサポート
- プログラミングの下書き生成等
- 各種文章の作成・校正・翻訳・要約

#### 2. 利用開始時期

常陽銀行 2024年2月5日（月）  
足利銀行 2024年4月予定

#### 3. 当社グループが導入する「ChatGPT」の概要・特徴

提供元	日本マイクロソフト株式会社
サービス名	「Azure OpenAI Service」
特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>有効な回答を導き出すための指示文書（プロンプト）の雛形を 12 パターン用意し、操作に不慣れな行員でも簡単に利用できる。</li><li>利用は閉鎖環境（外部と遮断されたクラウド環境）のみとし、入出力データの漏洩や AI の追加学習など情報の二次利用を防止する仕組みを構築している。</li><li>「利用ガイドライン」により、利用方針や手続きを明確化することで、誤った回答をするリスク（ハルシネーションリスク）や著作権侵害リスク等を回避・抑制する。</li></ul>

#### 4. 今後の計画

- 行内データとの連携等により、融資稟議書の作成支援、コンプライアンスモニタリング、お客さまからのお問い合わせ内容の分析や応対案の提示などでの活用を検討しています。
- 将来的には、お客さまからのお問い合わせへの自動応対や、AI が解釈した内容から業務プロセスに自動連携する仕組みを構築するなど、利活用の場面をさらに拡大することを想定しています。

以上

(参考)

## 行内専用 Chat 画面イメージ

### 【指示文書（プロンプト）】例

